

講演概要

養父市で安心して暮らしていくための医療福祉とまちづくり

千葉 義幸

(養父市医療福祉アドバイザー／ちば内科・脳神経内科クリニック院長／NPO 法人「但馬を結んで育つ会」代表理事／ MCE 研究所監事)

まず、脳神経外科医としての歩みや県内各地の病院での勤務経験、認知症専門医資格取得を経て地域医療に軸足を移した経緯を紹介した。公立八鹿病院でのアミロイド PET 撮影や抗アミロイド β 抗体薬による認知症治療の最前線を報告するとともに、加齢に伴い認知症の出現率が上昇していく現状や、急速な人口減少により隣接する豊岡市の診療所数が 10 年後には現在の 47 施設から 29 施設まで減少すると見込まれる将来推計を示し、「街が無くなる」という地域医療体制の危機感を会場と共有した。

こうした課題に一個人としてどう向き合うかという問いから、豊岡・養父・朝来 3 市と香美・新温泉 2 町を一つの生活圏として捉える、自身が代表理事を務める NPO 法人「但馬を結んで育つ会」(TMS)の理念や活動、医療・介護・行政・企業・住民をつなぐ連携組織としての役割や、日本海ヘルスケアネット(山形県)との連携協定締結などを説明した。続いて関宮地区で養父市が進める「小さな拠点事業」の取り組みの意義や、乗合交通の実証実験などの具体的な実践例を紹介し、さらに大屋町明延地区での、かつての鉱山坑道や空き家となった歴史的な商店建築を地域資源として活かし、住民や来訪者が集う場へと再生させる取り組み等を報告した。

最後に、医療・福祉・移動・産業を一体的に支える「但馬モデル」の構築に向け、行政や専門職だけでなく住民一人ひとりが担い手として関わることの重要性を呼びかけた。